

TCAの合言葉 ①自転車で風を追いかけよう ②健康と友情の輪をひろげよう ③道と自然と文化に親しもう



# TCA ニュース

=1997年1月発行=【No. 106】

発行 東京サイクリング協会 広報委員会

〒104 東京都中央区銀座7-15-11 ☎・FAX 03-3541-6540

サイクリストの五楽 ①輪楽・自転車を楽しむ ②行楽・旅を楽しむ ③道楽・道を楽しむ ④友楽・友と楽しむ ⑤遊楽・遊びを楽しむ

## 二十一世紀を目指して走ろう

副会長・鈴木茂夫

みなさん明けましておめでとうございます。年の始めにあたり、皆さまのご健勝とご多幸を祈念いたします。

わたくしたちの協会は、誕生以来四十一年目を迎えます。大勢の仲間の友情と熱意と協力の輪で、走り続けることができました。これからもみんなで力を合わせ、ますます明るく楽しくサイクリングを続けて行こうではありませんか。

自転車旅行は、それぞれのサイクリストの知力・体力・気力に応じて創り出されます。わたくしたちはペダリングを通して、何よりも人間であることの喜びを感じます。わたくしたちは、自然の中に人間が刻んだ道を走ります。街も村も自然の中にあります。サイクリストは自然を大切に、環境を守ってゆくことの意義を肌身で学んでゆきます。二十一世紀はもうすぐです。新しい世紀は、人間が自然環境を守り育ててゆくものとなるでしょう。と同時に、生活における遊びの意義が大切にされることにもなるでしょう。

わたくしたちは、これまで守り育ててきた良き伝統を、大切にしていかなければなりません。

わたくしたちが力を合わせて走り出せば、きっと新しい道が開けると確信しています。とにもかくにも協会の行事に、ご参加下さい。こんな行事をしようご提案下さい。わたくしたちの協会は、そんなあなたの熱意で育ってきたのですから。

以上



## 初体験のTCAサイクリングと笹子トンネル

レポート：山本進二郎

第一日目 10月12日(土) - 勝沼～ 笹子トンネルコース～宿 -

山梨県の勝沼から大月に至るTCAラリーは、私にとって「初」の多いサイクリングでした。初めて買ったツーリング用の自転車で、遠出する最初のサイクリングであったこと、初めて自分の自転車を輪行袋に入れて目的地に向かったこと、長い坂道のサイクリングが初めてであったこと、一泊するサイクリングであったこと、などなどです。このような人間が、ベテランの皆さんにどれほどついていけるか不安を抱きながら参加しました。

ここでは、私のサイクリング体験記の一部と印象に残った笹子トンネルのことを主にお話したいと思います。

見学予定地である二カ所のワイナリーで大量の試飲や軽食をし、そして昼食で胃袋の中に多くのモノを詰め込まれました。私の体は、頭と足にあるべき血液が胃に集中してしまい、腹の中だけが元気いっぱいでした。出発早々、軽快とはほど遠い足の動きになっていました。

その後どのような道が控えているのか知らなかった私は、その日、用意されていた三つのルート(笹子峠経由・笹子トンネル経由・大鹿峠経由)の中で、難易度が二番目のルートを選びました。初の長距離サイクリングではありましたが、自転車には多少の自信を持っていたので、いける、と考えたのでした。

三つのルートを選択する地点(選択地点)までは皆同じ道でした。坂道は覚悟していたもののどこまでも続く坂道を見てしまった時には、虚脱感を覚えました。でも、我慢しながら何とか坂道を漕ぎ、皆さんに遅れながらも、選択地点にやっとのことで到着しました。極度の足の疲労と尻の痛み(足以外はそれはどの疲労がなかった)を感じながら、自分の能力では皆さんにペースを合わせるのはとても無理だと悟り、急遽、三つの中で一番楽と思われるルートに変更しました。自らの能力と忍耐、努力の足りなさに腹立たしさと悔しさを感じながらも、楽なルートなのだから、これからは天国かもしれないと期待していました。

その日遅れて走っていたWさんを待って、トンネルに向けて出発しました。

期待に反して、トンネルに向かうまでの道もほとんどが登り坂でした。自転車を漕ぐのが難儀で、ほとんど押して歩いていました。自転車を漕ぐのと押すのとではこんなに違うのかと今更のように感じつつもちょっと漕いでは長い距離を押して歩いていました。自転車を漕いでいる時には思考能力が全くなくなっていました。押して歩いている時にはその余裕も出てくるので、色々な不安や後悔、恨みが頭に浮かびました。とはいうものの、自分一人ではなくWさんが一緒なので、孤独感を感じることもなくかなり気楽に進めました。トンネル内が下りの坂道であることを、期待というよりも祈りに脇た気持ちで歩いていました。しばらく歩いてやっと笹子トンネルに着きました。間近にみるトンネルの大きさに驚き、その奥深さに不気味さを感じながらも、トンネル内の道がほぼ平坦であることに気づいたときには胸をなで下ろしました。もう苦勞することはない、楽に走れる、と。トンネル内の道は少し登り坂だったようですが、気になるほどの坂ではなかったので、かなりスムーズに走れました。しかし、このトンネルが自転車を操る人間にとって恐ろしい道であることに気づかされました。トンネル内には、自転車や人間が通れるスペースがほとんどなく路肩が50センチ程度あるだけでした。その上、その路肩は道側から壁に向かって少し落ち込み、またそこが水で濡れている状態でしたので、下手に壁に近づきすぎようものなら、タイヤを滑らせかねない状況でした。道路も二車線(一車線だったかもしれない。漕ぐのと自動車に気を取られていたので、情けないことに記憶がはっきりしません。)でしたが、車が横を追い越す時には肝を冷やしました。

また、足下(自転車元?)が暗いのも問題で、運転には気のゆるみが許されないのも苦痛でした。このようなトンネルですので、もし転倒したら、惨事になりかねないなと想像しながら走っていました。

トンネル内を危険にする元凶は、やはり、車です(当たり前か!?)。まず、その排ガスです。体に吸い込むにはかなりの抵抗を感じる排ガスですが、それを吸わざるを得ないのは厳しいものです。どれほどの排ガスを吸ってしまったのか考えるのもちょっと恐ろしいことです。しかし、トンネルの外に比べて、その中は、排ガスのお陰でかなり暖かいので、寒さを避けるにはもってこいの場所ではないか、とつまらないことも考えていました。やはり、疾走する車が恐ろしいですね。通常の乗用車ならまだ良いのですが、トラックはかなり恐ろしい相手です。後部を走っているにもかかわらず、トラックの発する低音のエンジン音を感知した時から恐怖を感じます。トラックの接近に伴って後ろから責めたてるように次第に大きくなる音に恐ろしさも増し、車体のでかさや轟音を間近にした時には恐怖感は最高潮になります。さらに、トラックに追い抜かれた瞬間には、その後部で生じる吸引力によって自転車もろとも体がトラックの方に吸い込まれてしまうので、恐怖と危険性がピークに達します。体を持って行かれないように踏ん張って強くハンドルを握るのに一生懸命でした。また、トラックの強力なクラクションにも恐ろしさを感じます。そのトラックがかなり後ろにいたとしても、突然ということとトンネルの狭さや暗さが原因でしょう、あの音には驚きと恐縮で一瞬思考が停止してしまいます。それも、意味もなくクラクションをかなり立てる(ように思える)トラックの運転手がいることにも腹立ちを覚えました。こんなことは自転車を操る人には当然かもしれませんが、初心者にとってはかなりつらいことでした。しかし、笹子トンネルでは、車が断続的に通っていませんでしたので、他のトンネルに比べてそれほど危険ではないかもしれません。たまに走り去る大きなトラックが問題でしたが、その日は数台会った程度でしたし、びっくりするクラクションも一回あったただけでした。やはり笹子トンネルの大きな欠点は、路肩がほとんどない、それが濡れていて落ち込んでいる、というところでしょうか、次回走る人には気を付けていただきたい点と思います。

トンネル内には色々な危険や恐怖がありましたが、それまでの上り坂とは大きく異なり、快走できました。普通の漕ぎ加減で約十分くらいかかったようです(5キロ弱の距離)。閉鎖的なトンネルから脱した時には、無性に開放感を感じました。

トンネル内にはやはり、自転車がゆったりと走れるほどの路肩や車が走る道路と分離した自転車道(歩道)の必要性を痛感しました。

ともかく、自転車ではほとんど通ることがないトンネル内をサイクリングできたことは貴重な体験でした。すべてに対して無知な私でも、その日のスケジュールを何とかこなして、生きて宿にたどり着けたことは、参加の皆さんの暖かいご助言があったからこそと思います。

TCAの皆さんに心から感謝申し上げます。

## 沢下りの大鹿峠越え

レポート：石村達雄

第一日目 10月12日(土) - 勝沼～ 大鹿峠コース～宿 -

昼食の後、3コースに分かれて出発。磯部光博、石村達雄の2名が大鹿峠コースへ向かう。

勝沼側の笹子トンネル入口近くで左に入り、日川沿いに田野まで遡る。恵徳院の近くで民家の庭を横切るようにしてすぐ登山道に入る。15時15分。送電線が終始コースに沿っているので目印になる。大鹿峠までほとんど一直線の稜線を2nd強登る。自転車を押し、担ぎ上げる。杉の森の上方に紅葉の季節がのぞいている。17時大鹿峠(標高約1260メートル)着。足元に見落としそうな峠の標識。木立ちの中で見晴らしはない。

南側の斜面も一直線に下っている。樹に隠れているけれど片側は切り落としたような崖。そのけもの道のような踏み跡もかすかな下りで、磯部マウンテンバイクは羚羊のように姿を消す。

途中、荒れていると標識にあったとおり、大汗をかいて斜面を這い上がり泥だらけになって倒木群を越えた。峠から2nd程下って、スミ沢に突き当たる。

沢の中を磯部氏恰好よく自転車を担ぐ。私は引きずる。沢水が少なくこれに助かった。なんとか1ヶ所下流へ移動。沢から上がる地点で二たび三たび苦勞する。沢を這い上がると近くに自動車が入る山道が通じている。安心、もう遭難はない。18時。ここから約1.5ヶ所下って甲州街道(吉久保)に出る。すっかり暗くなった。街道沿いの下真木から宿のある桑西に向かう。急に雨が降りだす。真木の家並を過ぎたところからは灯のない夜道。私はついに押して歩く。下真木からは登り放しの5ヶ所だった。6時半、民宿板屋に着く。すでに全員くつろいでいた。そこは真木川沿い最奥部の鉾泉宿。賑やかな団らんの外は軒打つ雨、闇から滲んでくるような冷気。そして一目目の夜が更けた。

[参加者12名]

会津道夫、赤沼昇一、池田 宰、石村速雄、磯部光博、太田大輔、川原信義、中島健二  
中村洋一郎、永井 隆、山本進二郎、渡辺康雄

---

## EVENT

とにかく 一度 走ってみよう！！

社会的にも、そして、東京サイクリング協会(TCA)にもいろいろ大きな出来ごとのあった平成八年も過ぎ、新しい年に入りました。

今年度(八年度)に新しく入会された会員の皆さん、日ごろはどのようなサイクリング活動をされていますか？。

“ミニサイクルで買物の行き帰りに楽しんでいま - す”という人。

“新しいスポーツ車を買って家の近所でコツコツ走っています”という人。

実績充分で“去年もよく走ったなあ”という人

いろいろな人がいると思います。

TCAでは、今年度(八年度)新規入会の人達の「とにかく、一度集ってみようよ」と計画しました。

サイクリングってどんなふうになればいいのかな？の答が見つかるかも知れません。一緒に走る仲間に出会えるかも知れません。今迄の実績や、自分のサイクリング観を聞いてもらえる機会が出来るかも知れません。難しいテーマなどは準備していません。

“楽しくなくっちゃ、サイクリングじゃないよ”です。

場所や日時は次の通りです。

\*

日 時：平成9年2月16日(日) 集合10時、解散予定12時

場 所：パレスサイクリング(皇居二重橋前警備派出所のうしろ)

申込み：参加される人は、事務局に電話して下さい。 Tel 03-3541-6540

自分の自転車での参加、大いに結構。

電車で参加、大いに結構。貸し自転車有り。

但し、自動車は駐車場がありません。

費 用：無料。但し、自分の飲物代、昼食代は必要です。

服 装：特に指定なし、自転車に乗りやすいもの。(手袋など必要)

問合せ：事務局 中村まで (Tel 03-3541-6540)

内 容： サイクリングの楽しみ方と自転車の選び方  
サイクリングに必要な工具と注意するところ  
皇居周辺サイクリング